

# 長久会グループホーム ケアホームだより



2013 年も残り 1 ヶ月を切りました。雷雨が多く、時々みぞれが混じる天気が続いています。寒い毎日ですが、みなさん体調はお変わりないでしょうか。

さて、冬になり乾燥する季節となりました。乾燥していると火事が起こりやすく、火の元の注意がさらに必要となります。長久会グループホームケアホームでは、万が一火事になった場合に備えて、入居者が自分たちで対応したり行動したり出来るよう、避難訓練を定期的に行っています。今回は、8 月にウエルムどど町で行った、救助袋を使った避難訓練についての報告をします。

普段はこの形で収納されています。

ウエルムどど町は 3 階建ての建物で、2 階 3 階の東側と南側にそれぞれ非常口（東側は非常階段で、南側は救助袋）があります。今年の夏に、救助袋の老朽化に伴い新しい救助袋にしました。そこで、入居者のみなさんにも救助袋の使い方や降り方を知ってもらうために、救助袋を使った避難訓練を行いました。



救助袋は筒状の布の袋です。普段は、ステンレスの箱に置まれた状態で入っています。救助袋を出し入れするには、ステンレスのふたを開けて置かれている救助袋を出して下に降ろすなどの力が必要となります。そのため、まずは筋力のある入居者に出し方を見てもらい、実際に降ろしてもらいました。



ふたを開けるとこんな感じです。

階段を上って、足から入り降りていきます。



救助袋の中は、布がらせん状の滑り台のようになっていて、中で手足を動かしてずるずると滑り降りていくような構造になっています。

参加された入居者の中には、スムーズに降りていく方や、下で待っている職員たちに「手足動かして！」と励まされてゆっくりと降りる方がおられました。また、救助袋を見て「怖くて降りたくない」と言われた方もおられました。

万が一の時には、自分の命を守るために安全に逃げる手段として救助袋があるということ、そのために救助袋の使い方を知ることとはとても大切だということを話し合い、救助袋を出す体験だけをする方もおられました。

実際に取り組んでみて、3 階という高さから先のあまり見えない袋の中に入り、降りていくというのは、とても勇気がいることだと思います。また、階段を上って足先から袋の中に入っていき時に体をくねらせるなどのコツも必要なので初めての方には少し難しかったとも思います。



無事に脱出しました！

全部出し切ると、救助袋はこんな姿をしています。



災害が起こらないことが一番ですが、万が一、起きてしまった場合には少しでも早く、安全に逃げられることが重要だと思います。これからも入居者で判断してより安全に避難が出来るように、避難訓練を続けていきたいと思っています。

ご質問・ご不明な点などありましたら、お気軽にご相談下さい。

長久会グループホームケアホーム

加賀市百々町3-1 1-1

ウエルムどど町

担当：伊藤・林田